

剣道イメージ尺度の作成と 応用の可能性

古澤伸晃*・新里知佳野*・

八木沢誠*・軽部幸浩**・藤田主一*

Image of Kendo Scale and Possibility of its Application

Nobuaki FURUSAWA*,
Chikano SHINZATO*, Makoto YAGISAWA*,
Yukihiro KARUBE** and Shuichi FUJITA*

This study examined the psychological structure of “the image of Kendo” among Kendo club students. This study included 418 students (282 male, 136 female) from seven universities in the Kanto region. This study was conducted using the 72-item Image of Kendo Scale. The factor analysis extracted five factors in this study. The participants identified the image of Kendo with the concepts of “Significance”, “Negative”, “Reality”, “Ideal”, “Discomfort”.

key words: images of Kendo, factor analysis, Kendo club

問題と目的

武道の理念は、「武士道の伝統に由来する我が国で体系化された武技の修練による心技一如の運動文化で、柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道を修練して心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う、国家、社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道である」(日本武道協議会, 2008)。

武道をどのように捉えているのかという観点から、武道全体へのイメージを調査した研究がある(船越, 1979; 小林他, 2018)。船越(1979)は、10代から60代の男女225名に「武道は」という質問を50個用意し自由記述させたところ、武道イメージは「武道の一般的印象」「武道の概念規定」「武道の価値的側面」「武道場面に関連する側面」「武道の否定的側面」にまとまった。小林他(2018)は、武道授業(空手、弓道、剣道、柔道)を受講する学生395名に30項目の質問紙を用い

* 日本体育大学

Nippon Sport Science University, 7-1-1 Fukasawa, Setagaya-ku, Tokyo 158-8508, Japan.
(n-furusawa@nittai.ac.jp)

** 日本大学商学部

Nihon University College of Commerce, 5-2-1 Kinuta, Setagaya-ku, Tokyo 157-8570, Japan.

て武道イメージを調査した。因子分析の結果、武道イメージは4因子(伝統文化、愉快快活、苦痛危険、静謐)で構成されることを見出している。また、「愉快快活」「静謐」の2因子は空手と弓道、剣道の授業終了後に得点が高くなることが示され、因子の特徴と武道競技との関係が明らかになった。

全日本剣道連盟は、1975年3月20日に剣道の理念を「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」と制定しているが、剣道の体験者と未体験者は、この理念に基づく日本古来の剣道をどのように捉えているか。

これまでに、剣道イメージについて古澤他(2021)は、中学校2年生を対象に調査した結果、剣道経験者は具体的な「有効打突」を強く意識し、未経験者は「武道としての文化」を強く意識していることがわかった。新里他(2021)が大学生を対象に調査した結果、剣道経験者は「人間形成」、未経験者は「礼儀」の出現頻度が高いことが明らかになった。本研究では、それらの知見に基づいて、大学の剣道部学生を対象に調査を行った。本研究をとおして、剣道を「習う者」の心理的構造を把握することで、「指導する者」への有効的な活用の一助となるように剣道イメージ尺度を新しく作成することを目的とした。

方 法

調査対象者 調査は、関東圏内の全日本学生ならびに全日本女子学生剣道優勝大会(通称:インカレ)出場経験のある剣道部7大学の1年生から4年生を対象として2021年10~11月に実施された。調査対象者は、合計418名(平均年齢19.9歳)、男子282名(平均年齢20.0歳, $SD=1.23$)、女子136名(平均年齢19.8歳, $SD=1.24$)であった。

調査内容 質問用紙(A4用紙1枚)は、フェイスシート(学年、年齢、性別、剣道経験、スポーツ歴)に続き、剣道イメージに関する72項目を4件法(4非常にそう思う、3そう思う、2そう思わない、1まったくそう思わない)で作成された。

倫理的配慮 本研究は、日本体育大学倫理審査委員会に「人を対象とする研究倫理審査申請・研究計画書」を提出し、審査の結果、承認された(承認番号020-H172)。

手続き 被調査者に調査の目的を説明し、同意した者のみ記入後の調査用紙の提出を求めた。調査用紙の指示は次のとおりであった。「質問内容を読んで、あなたがどう感じたかを答えてください。そう思った回答のところに○印をつけてください。正しい答えや、間違った答えはありませんので、気軽に思ったところを回答してください。」

結果と考察

調査結果を因子分析(最尤法プロマックス回転)したところ、剣道に対するイメージは、5因子で構成されることが明らかになった(Table 1)。因子Iは、「剣道は礼儀作法が身に

Table 1 因子分析の結果

質問内容	因子I	因子II	因子III	因子IV	因子V	平均 得点	標準 偏差
1 剣道は礼儀作法が身に付く武道である。	0.90	0.01	-0.06	-0.07	-0.06	3.7	0.59
2 剣道は人間形成を目指す武道である。	0.88	0.03	-0.09	0.00	-0.09	3.7	0.59
3 剣道は相手を敬う心を養う武道である。	0.80	0.08	-0.10	0.05	-0.08	3.6	0.55
4 剣道は礼儀が身に付くようになる。	0.76	0.03	0.11	-0.01	0.01	3.6	0.57
5 剣道は心身を鍛錬する武道である	0.76	-0.07	0.11	-0.13	0.04	3.6	0.61
6 剣道は礼節を重んじる武道である。	0.74	-0.04	-0.23	0.14	-0.05	3.8	0.48
7 剣道は負けた相手を思いやる武道である。	0.59	0.10	0.12	-0.04	0.03	3.4	0.67
8 剣道は子どもから高齢者まで楽しめる武道である。	0.55	-0.14	0.05	-0.02	0.21	3.7	0.56
9 剣道は怪我予防のためにウォーミングアップが大切である。	0.53	-0.12	0.15	-0.19	0.32	3.7	0.56
10 剣道は挨拶ができるようになる。	0.50	-0.08	0.18	0.21	0.08	3.6	0.60
11 剣道は冬に稽古をするのはやめたほうがよい。	0.02	0.84	-0.02	0.02	-0.01	2.1	1.00
12 剣道は夏に稽古をするのはやめたほうがよい。	-0.01	0.80	-0.06	-0.07	0.16	2.3	1.00
13 剣道は無駄に声を出す武道である。	0.03	0.73	0.15	-0.03	-0.04	2.2	0.92
14 剣道は発声がうるさい武道である。	0.06	0.72	-0.01	-0.04	0.21	2.5	0.96
15 剣道は冬は寒く夏は暑いので子どもたちには向かない。	0.00	0.69	0.11	-0.09	-0.04	2.1	0.90
16 剣道は合宿で鍛えることが大切である。	0.04	-0.05	0.69	-0.03	-0.11	2.8	0.84
17 剣道は比較的危険が少ない競技である。	-0.03	0.29	0.54	-0.06	-0.25	2.4	0.90
18 剣道は自分の意思表示ができるようになる。	0.22	0.07	0.52	0.02	-0.17	3.0	0.81
19 剣道は剣道着・袴姿がかっこいい。	0.14	-0.28	0.51	-0.04	0.23	3.4	0.69
20 剣道は相手と打突し合う武道である。	-0.15	-0.05	0.01	0.78	0.13	3.5	0.67
21 剣道は日本を代表する武道である。	0.29	-0.09	-0.07	0.67	-0.01	3.7	0.54
22 剣道はもっと世界に広めるべきである。	0.23	-0.03	0.05	0.64	-0.09	3.5	0.67
23 剣道は子どものころから習うほど成長できる武道である。	-0.07	0.07	0.07	0.62	0.06	3.2	0.85
24 剣道は冬に床が冷たく足が痛い。	0.08	0.17	-0.09	-0.01	0.77	3.4	0.71
25 剣道は裸足なので足が冷たい。	0.03	0.14	-0.08	0.11	0.77	3.5	0.64

付く武道である」などの10項目から構成されているので「意義」と解釈した ($\alpha = 0.897$)。因子IIは、「剣道は冬に稽古をするのはやめたほうがよい」などの5項目で「否定的見方」と解釈した ($\alpha = 0.845$)。因子IIIは、「剣道は合宿で鍛えることが大切である」などの4項目で「現実」と解釈した ($\alpha = 0.530$)。因子IVは、「剣道は相手と打突し合う武道である」などの4項目で「理想」と解釈した ($\alpha = 0.705$)。因子Vは、「剣道は冬に床が冷たく足が痛い」などの2項目で「身体的不快」と解釈した ($\alpha = 0.712$)。剣道イメージ尺度(全25項目)の信頼性係数は0.991であった。先の船越(1979)、小林他(2018)の報告は、武道全体のイメージを調査したものである。一方、本研究は剣道に特化したイメージの研究であるため、武道全体のイメージとは異なるものであった。

本研究の結果から、剣道イメージは、5因子で構成されることが示唆された。同様に「心・技・体」との関係で考えると「心」が因子I、因子III、因子IV、「技」が因子IV、「体」が因子II、因子Vで構成されていた。今後の課題は、剣道イメージ尺度を標準化するために、剣道部員以外の児童生徒・学生(武道必修化にともなう剣道授業経験者も含む)を対象にして同様の調査を行い、本研究の5因子が安定するか否か

を検討することである。さらに、指導者がこれから剣道を探りたい者の抱えている剣道イメージを知ることで、より良い実践指導の手段となることが目標である。

引用文献

- 船越 正康(1979). 現代武道観研究 — 武道に関する表現語彙の収集 一. 武道学研究, 11 (3), 49-55.
- 古澤 伸見・新里 知佳野・八木沢 誠・軽部 幸浩・藤田 圭一(2021). 武道必修化に伴う中学生の剣道イメージに関する研究. 応用心理学研究, 46 (3), 234-246.
- 小林 優希・平岡 拓見・桐生 習作・鍋山 隆弘・麓 正樹・石川 美久(2018). 大学体育における武道種目受講学生の武道イメージ. 武道学研究, 50 (2), 79-87.
- 新里 知佳野・古澤 伸見・八木沢 誠・軽部 幸浩・藤田 圭一(2021). 剣道に関するイメージ構造の分析的研究 — 剣道部学生と一般学生との比較 一. 応用心理学研究, 47 (1), 1-11.

(受稿: 2022.12.30; 受理: 2023.3.20)